

音楽科学習指導案

安芸高田市立美土里中学校

教諭 植田 佳子

- 1 概要 日時：平成17年11月22日(火) 10:00～10:50
対象：第3学年 32名
場所：美土里町生涯学習センターまなびホール

2 題材名

「音楽・再発見」 神楽囃子に学ぶ

3 題材の指導目標

神楽囃子の体験を通して、その音楽的な特徴にふれ、郷土の音楽の価値を再認識し、より親しんでいこうとする態度をはぐくむ。

神楽囃子の音楽的な効果を生み出すリズムの特徴を理解し、表現を工夫させる。

世界の諸民族の音楽からリズムの構造に着目し、世界の音楽との共通性を実感させる。

4 題材設定の趣旨

(1) 題材観

本題材は、郷土の音楽を素材とした創造的な音楽学習を通して、それらが持つ魅力や劇的な効果を生み出す特徴を感じ取らせることで、音楽としてのよさを再発見し、音楽的視野を広げることがをねらいとして設定した。中学校学習指導要領解説音楽編には、多様な音楽のよさや美しさを感じる能力を育てるためには「われわれの身近にある郷土の伝統音楽に親しんだり、我が国の伝統的な音楽のいくつかの種類を聴き比べることが考えられる」とある(p.56)。今日の中学生は、情報メディアの発達により、様々な音楽を耳にする環境にある。中でも生徒は、一般的に西洋音楽の流れを汲むものを好む傾向にあり、我が国の伝統音楽や世界の諸民族の音楽に自らふれる機会は少ないと考える。一方で、こうした音楽に授業を通してふれる際は、何気なく耳にしてきた祭りの音などを手掛かりに接していることも見受けられる。そこで、身近な郷土の音楽である神楽囃子を題材に取り入れ、神楽囃子の効果を生み出す特徴的な要素に着目させ、リズムの創作を工夫することで、郷土の音楽の持つよさをより実感させることとした。また、世界の諸民族の音楽との比較を通して、様々な音楽への関心を高め、幅広い音楽観を養うことに結び付けることとする。

(2) 生徒観

美土里町には神楽、はやし田、花踊り、獅子舞など11もの広島県指定の文化財があり、長い歴史、風土の中で現在も大事にはぐくまれて伝承されてきている。その中でも、特に神楽は13の神楽団が活動しており、本校の生徒も約6割が各地域の「子ども神楽」などで神楽を体験している。また、幼い頃より身近な場所で祭囃子に親しんでおり、その独特なリズム感や迫力に多くの生徒が「楽しい」

「のりがいい」などの好印象を持っている。アンケートで「神楽が好きですか」の問いには約8割の生徒が肯定的な回答を示した。一方で、我が国の伝統音楽をはじめとする世界の諸民族などの多様な音楽にふれる機会は少なく、音楽全般に関してはやや受け身的なところがある。そこで、美土里町における神楽囃子を郷土の音楽の題材として取り上げ、神楽の楽器を用いたリズム創作を通して、郷土の音楽の持つよさを再発見することにより、多様な音楽活動へとつなげていきたい。

(3) 指導観

指導に当たっては、創作表現活動と鑑賞活動を組み合わせ、主体的に音楽活動に関わらせることで、多様な音楽への興味・関心を養う。楽器の演奏に当たっては、神楽の楽器経験者である約半数の生徒をバランスよくグループ分けし、スムーズに行えるよう工夫する。また、リーダーとなる胴（大太鼓）については、経験者である生徒からもアドバイスをさせるようにする。神楽は口唱歌が基本であり、本学習においても口唱歌を記述したものを教材として用いることで創作活動への流れをスムーズに展開できるようにする。また、実際の神楽の映像を用いることで個々のイメージを広げ、創作への意欲を高めていきたい。



5 主な教材

(1) 教材名

神楽「紅葉狩」

ケチャ（インドネシア）

(2) 教材について

神楽「紅葉狩」

「紅葉狩」平成16年度文化発表表から

生徒に人気のある演目で経験者も多く、ストーリーもよく知られている。能や歌舞伎の演目でもある。旅の途中で道に迷った中納言平維茂らが姫に化けた鬼女らに遭遇する。紅葉狩と称する酒宴に誘い込まれた維茂らは、酒に酔いつぶれ、命をねらわれるが、八幡大菩薩の助けによって鬼女たちを退治するという物語である。

ケチャ（インドネシア）

バリ島の舞踊劇の1つ。各パートに分かれた男声によるかけ声のコンビネーションによって複雑な音楽的リズムを創り出している。

6 指導の工夫

第一次では、神楽囃子の効果の1つと考えられるリズムの組み合わせに着目させる。神楽囃子では、いわゆる地打ち₁となる小太鼓と手打鉦によるリズムに、上打ち₂となる胴が効果的に入ることで場面の雰囲気盛り上げ、リズムを変化させている。そこで、こうした効果を実感させるため、「立合い」₃の拍子を取り上げ、その特徴を生かしたリズム創作をさせることとした。またその他にも、強弱や速度が変化している場面を部分的に聴かせることで、表現の工夫への手掛かりとさせていきたい。

第二次では、グループごとに胴、小太鼓、手打鉦に分担し、リズム創作をさせる。クラスを6グループに分け、A B A C A D A E A F Aのロンド形式で創作をさせる。Aの部分は、神楽同好会のメンバーに創作させ、楽器の習得も兼ねて全員が模倣する。B C D E Fそれぞれの部分は、その他の5グループが創作を行う。また、グループごとのリズムのつなぎでは、打ち下ろし₄や胴を鳴ら

す合図を取り入れさせ、スムーズに音楽が流れていくようにする。

第三次では、リズムアンサンブルを中心とした世界の諸民族の音楽として、インドネシアのケチャなどを取り上げ、その共通性を感じ取らせつつ多様な音楽のよさに迫らせたい。また、聴かせる音楽の中に自分たちが演奏した美土里囃子も取り入れることで、こうした音楽の1つに神楽囃子もあることを再認識させ、幅広い音楽観を養っていく。

7 指導計画（6時間扱い）

第一次（1時間）

- ・ 神楽囃子のリズムの構成をつかむ。
- ・ リズムの組み合わせや強弱、速度の変化が生み出す効果に気付く。

第二次（4時間）4 / 4 本時

- ・ 各グループで楽器の役割を決め、基本の「立合い」のリズムを習得する。
- ・ グループ毎にリズム創作をする。
- ・ リズムの組み合わせ、強弱・速度の変化による効果を工夫する。
- ・ 各グループの演奏をつなげて、曲を完成する。

第三次（1時間）

- ・ 世界の諸民族の音楽から音楽の共通性や多様性を理解する。

8 評価計画

評価規準

- ア 神楽囃子の音楽的な特徴（リズムの組み合わせ、速度・強弱の変化）に関心を持ち、意欲的に創作表現している（音楽への関心・意欲・態度）
- イ 神楽囃子の音楽的な特徴を感じ取り、場面をイメージしたリズムの創作を工夫することができる（音楽的な感受や表現の工夫）
- ウ 神楽囃子の音楽的な特徴を生かした創作表現ができる（表現の技能）
- エ 世界の諸民族の音楽から曲の特徴を聴き取り、音楽の多様性を理解している（鑑賞の能力）

評価方法

- a 行動観察 b ワークシート c 創作発表 d 自己評価カード

題材の評価規準

【題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準】

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	神楽囃子の音楽的な特徴（リズムの組み合わせ、速度・強弱の変化）に関心を持ち、意欲的に創作表現している。	神楽囃子の音楽的な特徴を感じ取り、場面をイメージしたリズムの創作を工夫している。	神楽囃子の音楽的な特徴を生かした創作表現をしている。	我が国の伝統音楽や世界の諸民族の音楽から曲の特徴を聴き取り、音楽の多様性を理解している。
学習活動における具体的評価	神楽囃子のリズムの特徴に関心を持ち、意欲的に聴いている。 楽（がく）の音の特性や奏法に関心を持ち、表現することに意欲的である。 神楽囃子の特徴を生かして創作することに意欲的である。	神楽囃子の音楽的な特徴を感じ取っている。 神楽囃子の特徴を生かして創作を工夫している。	神楽囃子の特徴を生かして創作表現をする技能を身に付けている。	我が国の伝統音楽や世界の諸民族の様々な音楽の特徴を理解し、曲を聴き取っている。 人類の音楽文化が多様であり、それぞれ固有のよさがあることを理解している。

【題材の評価規準を導き出すために参考とした内容のまとめりごとの評価規準及び評価規準の具体例】

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
歌唱				
器楽				

	<p>グループ毎に神楽囃子としたリズム創作をする。</p>	<p>美土里囃子を創ろう</p> <p>基本の立合い拍子の練習をする。</p> <p>「立合い」の場面を鑑賞し、表現する場面を具体的に設定する。 各グループでオリジナルのリズムを創作する。</p>	<p>前時を振り返らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まだうまく演奏できないな。 <p>「立合い」の場面から自分たちが表現したい場面を設定し、基本の地打ちのリズムパターンを創作させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「立合い」の中でもこんな場面を表現しよう。 <p>上打ちのリズムを工夫させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのように創ればかっこいいリズムになるだろうか。 	<p>ア</p> <p>イ</p> <p>ウ</p>	<p>ア a</p> <p>イ ab</p> <p>ウ bd</p>
	<p>リズムの組み合わせ、速度・強弱の変化を生かしてリズム創作をする。</p>	<p>美土里囃子を創ろう</p> <p>基本のリズム練習をする。</p> <p>リズム創作</p> <p>グループごとの中間発表</p> <p>全員でリズムをつなげて演奏する。</p>	<p>みんなで合奏し、創作活動への意欲を高めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前よりもうまく合わせられるようになった。 <p>リズムの組み合わせ、速度・強弱の変化を工夫させる。</p> <p>各グループが工夫していることに着目して聴かせ、気付きを発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの音楽をもっと盛り上げるためにはどう表現したらいいのかなあ。 <p> Rond形式で演奏させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つなぎのタイミングが難しいなあ。 	<p>ア</p> <p>ウ</p> <p>イ</p> <p>ウ</p>	<p>ア a</p> <p>ウ b</p> <p>イ bc</p> <p>ウ d</p>
	<p>各グループの演奏をつなげて、曲を仕上げる。 (本時)</p>	<p>美土里囃子を仕上げよう</p> <p>前時の演奏録音を聴き、グループごとに課題設定をする。</p> <p>グループ練習</p> <p>グループ発表及び気付きの交流</p> <p>グループ練習</p> <p>合奏(仕上げ)</p>	<p>気付きを交流し、各グループの課題設定につなげさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとにもっと変化が出せた方がいい。 <p>グループでの表現がより強調されるよう工夫させる。</p> <p>前回の気付きを踏まえて変化しているところに着目させつつ、気付きを交流させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回よりも雰囲気がよく出ている。 ・ もっと強弱に変化をつけた方が盛り上がる。 <p>お互いの気付きを生かして練習させる。</p> <p>演奏を振り返り、自己評価カードに記入させる。</p>	<p>ア</p> <p>イ</p> <p>ウ</p> <p>ウ</p>	<p>ア a</p> <p>イ ab</p> <p>ウ cd</p> <p>ウ d</p>

第三次 (1時間)	世界の諸民族の音楽からそれらの特徴を聴き取り、音楽の多様性を理解する。	様々な国の音楽を味わおう	<p>前時で自分たちが演奏した神楽囃子も取り入れて聴取させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国によっていろいろな音楽があるなあ。 ・ 他の国の人々が神楽囃子を聴いたら同じような感じがするのかなあ。 <p>声によるリズムアンサンブルであることを理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神楽と共通するところもある。 ・ 全然違う感じがする。 <p>神楽囃子も世界の様々な音楽の1つであり、視野を広げることで音楽のよさを再発見できることを理解させる。</p>	工	工 b
		<p>世界の諸民族の様々な音楽を聴き、その特徴を理解する。</p> <p>ケチャを聴取し、神楽と共通するところに着目させる。</p> <p>学習のまとめ</p>		工	工 b



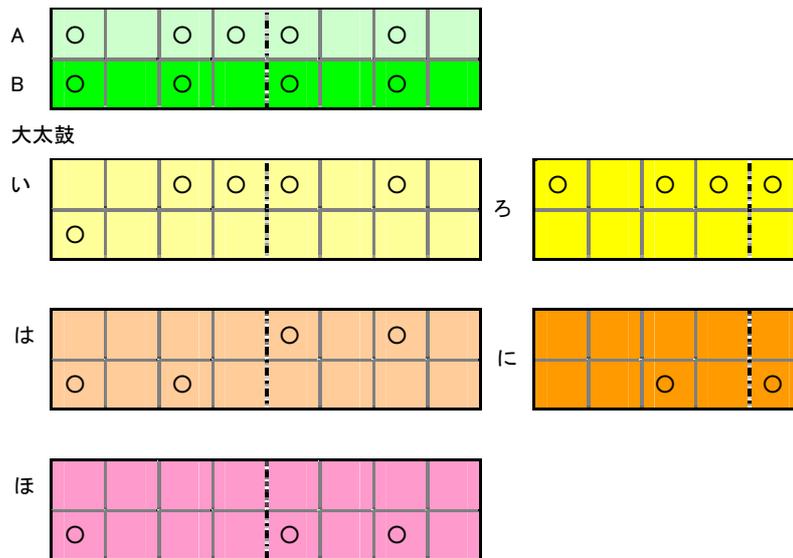
10 本時の学習 (第2次 第4時)

本時の目標

「美土里囃子を仕上げよう」

学習指導の展開

課題	学習内容 生徒の主な活動	学習形態	学習活動並びに指導の工夫		評価 [方法] *校内か本時の中心評価その他研修的評価
			Bに達した生徒への指導 ・生徒の思い	Bに達成させるための指導の工夫 ・生徒の思い	
把握 10分	1 前時の録音を聴き、自分たちの演奏を振り返る。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2, 3名の感想を紹介する。 ・ リズムの変わり目をスムーズにつなげていきな! ・ グループごとの意気をもっと出せるといふなあ 	<p>感想で出た意見を今日の学習に生かすよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まだうまく演奏できない! <p>神楽同好会のメンバーから、奏法についてのアドバイスをさせる。</p>	<p>主体的に音楽を聴き、今日の学習活動に生かそうとしているか。(関心・態度・意欲)</p> <p>[観察]</p>
	2 学習課題の把握をする。 美土里囃子を仕上げよう				
計画 5分	3 グループ毎に表現の工夫について話し合う。	グループ	<p>前回の中間発表での自己評価を振り返り、自分たちの表現に生かすよう助言する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ どう工夫すればいいかわからない! ・ みんなで決めた課題を自分のワークシートに書き、課題を把握させる。 ・ 話し合いに集中して参加できるように促す。 ・ リズムにうまく乗れるかな ・ 自分が入るタイミングがわかるかな <p>グループの同じ楽器の人と協力していくよう促す。</p>	<p>より具体的な表現の工夫をしようとしているか。(音楽的な感受や表現の工夫)</p> <p>[観察, ワークシート]</p>
			<p>グループの課題を出し合い、学習課題を明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちが表現したい立合いの場面は? ・ どのような工夫をすれば場面の雰囲気強調できるか。 <p>表現するために必要な技能のアドバイスをする。</p>		
追	4 確認した内容を基に	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ うまく表現できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲を変化させるタイミングがわかり 	<p>主体的に活動に取り組んで</p>



< 美土里神楽について >

美土里神楽の音楽

美土里神楽は、^{がく}楽と舞によって演じられる。楽とはいわゆるお囃子を指し、楽器は、笛、大太鼓、小太鼓、手打鉦が用いられる。大太鼓は^{どう}胴と呼ばれ、お囃子のリズムをつかさどるリーダーの役割をしている。小太鼓や手打鉦は、大太鼓が打つタイミングや強弱、速度に合わせて細かいリズムを連打し、曲を盛り上げていく。また笛は、奏者のアドリブによって追分調のメロディが演奏される。

神楽の物語には、演目によって若干の違いはあるが基本的な場面のパターンがあり、音楽のパターンもその場面に合わせて決まっている。物語は、神（シン）と呼ばれる正義の味方が、主君の命を受けて都を荒らす悪い鬼を退治する、という流れが中心になっており、これらの他にも鬼が変装した姫や、道化役の門丸と呼ばれる傘売り、木こりなどが登場する。この流れに沿って楽は、神楽歌を含む「神拍子」、「姫拍子」、「門丸拍子」、「鬼拍子」、「立合い」などのリズムパターンを演奏する。観客は音楽を聞きながら、今演じられている場面のイメージをつかむことができるのである。また、このリズムパターンや神楽歌、笛などの節回しは、同じ演目でも各地域で微妙に違っており、地域ごとの特色を表わしている要素の1つともなっている。

音楽の特徴について

神楽のリズムは、基本的には4分音符、8分音符、16分音符の組み合わせから成り、一拍のパターンは  の組み合わせであると考えられる。小太鼓や手打鉦がこれらのリズムを刻み、胴はこうしたいわゆる地打ちに乗った上打ちとして効果的に入ることで、神楽囃子独特のリズム感や間を生み出したり、小太鼓や手打鉦のリズムを変化させるきっかけを出したりしていると考えられる。また基本的には4拍子系の音楽になっているが、神楽歌を含む神拍子は3拍子や2拍子を含む変拍子になっている。この他に、速度や強弱の変化をつけることにより、それぞれの場面の劇的な効果を表現しているといえる。